

腹の虫の居所が悪い (腸内細菌と脳の関係)

はじめまして。はみんぐだよりに初めて記事を書かせて頂きます。

亀谷 寛(かめたに ひろし)と申します。この4月から多田先生の後任として赴任させて頂きました。3月まで柏市立柏病院に長いこと勤務させて頂き、神経内科を中心に内科を担当してきました。得意なことは、内視鏡的胃瘻造設術、気管内挿管、気管切開でしたから、神経内科医らしくないことばかりやってきました。

さて、前任の多田先生のような崇高な文章は書けませんから、主に神経系の割と新しくて御興味のわきそうな話題を書かせて頂こうかと思えます。

標題の「腹の虫」ではないのですが、「腹の細菌」によって不安など感情に影響が出るという研究が出ました。2020 年末の論文です。血液のリンパ球には、B 細胞 T 細胞があります。T 細胞は殆どが $\alpha\beta$ (アルファベータ) という形なのですが、腸の中などに少数ですが $\gamma\delta$ (ガンマデルタ) という形があります。これは腸の細菌(腸内細菌といいます)が産生に関与しています。この論文は、髄膜(脳を取り囲んでいる膜)の $\gamma\delta$ (ガンマデルタ) T 細胞が多いと不安が強くなるという研究です。実験で $\gamma\delta$ (ガンマデルタ) T 細胞を壊すと不安が軽くなります。髄膜の $\gamma\delta$ (ガンマデルタ) T 細胞は、腸から血液で運ばれていると考えられているので、言い換えれば腸の細菌により不安が強くなるということです。あくまでネズミさんの実験ですが、「腹の虫(細菌)の居所が悪い」から御機嫌が悪いというのは科学的事実のようです。このような、腸(特に腸内細菌)と脳との関連は、脳腸連関と呼ばれ最近の大きな話題です。次回以降も、この話題が出てくると思います。

今後とも、はみんぐを宜しくお願い申し上げます。

2021年5月

はみんぐ 亀谷 寛